

ライフコースの視点からみた外国人大学教員のキャリア形成

渡邊 恵 (広島大学)

1. 背景と目的

高等教育の国際化に伴い、日本の大学で働く外国人教員の数は年々増加している。しかし日本では、外国人教員の全体的な割合は増加しているものの、上位職における割合はそれに見合うほど増えていない (Huang 2018)。また、外国人教員に占める女性の割合は、職位が上がるにつれて減少する傾向がみられる (文部科学省 2024)。ここ数年、特に高等教育研究の専門家の間では、外国人教員の特徴や、彼らが職場で直面する周縁化、組織的支援の不足といった課題に関する研究が進められ、知見が蓄積されつつある (例: Brotherhood et al. 2019; Kotake 2024)。

こうした状況を踏まえ、本研究の目的は、ライフコースの視点から日米の大学に勤務する外国人教員のキャリア形成に関する経験と展望を明らかにし、長期的な視点から組織的支援制度のあり方を探ることである。あわせて、ジェンダーの視点から、外国人教員が昇進などキャリアアップを図る際に直面する障壁についても考察する。日米二カ国で調査を実施することで、両国における外国人教員を取り巻く環境を比較し、日本の大学の特徴や取り組むべき課題への理解を深める。

2. 方法

本研究では、外国人教員のキャリア形成に関する経験と展望を、世代やキャリアステージ別に見られる環境や認識の違いに着目しつつ、結婚・子育て・リタイアメントといったライフイベントとの関連から検討する。分析には、日米の大学でフルタイム勤務する外国人教員を対象に実施した半構造化インタビューおよびフォーカスグループのデータ (女性 19 名、男性 25 名、計 44 名) を用いる。なお、日本においては外国人を「日本国籍を有しない者」と定義し、米国においては「外国生まれ (foreign born)」を基準として調査協力者を募った。

3. 結果と考察

これまでの分析で明らかになった主な結果として、日本の回答者の間では、子育てに関連する要因が、日本でキャリアを継続するか (あるいはリタイア後も生活を続けるのか)、それとも母国へ帰国するかといった選択に影響を及ぼす傾向が見られた。例えば、子どもが日本の公立小学校に通う東南アジア出身の若手教員は、帰国したときに子どもが母国の学校に適応できるかを心配していた。そのため、家族と共に日本での生活を続けながらキャリアを築いていきたいと考えていた。一方、米国の回答者については、移民制度や大学の雇用条件の違いなどを考慮する必要があるものの、米国でのキャリア形成の意向に対する子どもの影響は比較的小さいようだった。

キャリアアップの障壁については、特に日本の回答者から、ジェンダーよりも「言葉の壁」や学術界における「暗黙の了解」が指摘されることが多かった。

今後、日本においても子育てをしながらキャリアを形成する外国人教員の増加が見込まれる。本研究の結果は、仕事面に加え、家庭生活や私的な側面を含む包括的な支援制度の検証と実施の必要性を示している。また、「言葉の壁」や「暗黙の了解」への対応に向けた組織的な取り組みの重要性も示唆している。

【文献】

- Brotherhood, Thomas, Christopher D. Hammond, and Yangson Kim. 2019. "Towards an Actor-Centered Typology of Internationalization: A Study of Junior International Faculty in Japanese Universities." *Higher Education* 79(3): 497–514.
- Huang, Futao. 2018. "Foreign Faculty at Japanese Universities: Profiles and Motivations." *Higher Education Quarterly* 72(3): 237–49.
- Kotake, Masako. 2024. "Exploring Compatibility Issues between International Faculty and Their Host Environment: A Case of a Local National University in Japan." *ECNU Review of Education* 7(4): 885–904.
- 文部科学省. 2024. 学校基本調査. <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001>

*本報告は JSPS 科研費 23K12729 の助成を受けたものです。

(キーワード: ライフコース、高等教育、国際化)